

## 平成28年司法試験 合格体験記

平成27年度修了（既修コース）大林 建太

11期既修の大林建太と申します。

司法試験に限った話ではないかもしれませんが、僕は、目標を達成するためには、正しい方法で、継続してやるのが大切だと考えます。

司法試験は100点満点の筆記試験であり、点を取るための方法論が存在します。そして、それを一番よく知っているのが合格者であり、数々の合格者を見てきた先生方なのではないでしょうか。

僕自身、個別に先輩・先生にお願いしたゼミや、課外ゼミ等を通じて、法律答案の枠組みや答案のメリハリ、科目の特性に応じた得点の取り方やアピールの仕方など、点を取るために必要なさまざまな技術を学び、ブレイクスルーを味わった経験があります。

合格発表後は、そのような経験を通じて自分が学んだこと・新しく得たことなど、少しでも後輩へ遺せたら、そういう思いで、後輩達へのゼミに精を出す日々を送っています。

ひょっとしたら僕の助言が、誰かの心に少しでも引っかかってくれて、その人がまた次の代へ伝えていく。そういう流れが上昇気流を生み、ロー全体が盛り上がり欲しい。打倒広大などと言っているようじゃ駄目だと、もっと上を目指せと、そういうことが堂々といえるような環境・伝統を築いていってほしいと願っています。

継続するという事に関し、自分が大事にしていた考えを補足しておきます。

勉強以外のことをしている時間は、常に合格のためにどう役立つかを考える（もちろん、心身の健康が第一！ですが）。「君たちにはクリスマスも正月も来ない」（ある実務家の先生のお言葉）、仲間とは、慣れ合うのではなく高めあう（この仲間たちと一緒に受かりたいという気持ち）。人からのアドバイスは、合格へ近づくチャンス（素直さを大切に）。疑問に思ったことは、放置しない（付箋をつけるなりして、すぐに調べる・聞く）。友達でも先生でもどんどん利用してやるという貪欲さで（驕っては駄目だが、謙虚さはローでは美德ではない）。そして、最後は、自分のこれまでの努力に自信を持つ（自信を持てるほど、努力する）。

以上、頑張ってください。